

概要説明書

概要説明書(その1)		※登録No.	2025D204
技術名称	センターブロック式区画柵用 上部反射材	※登録年月日	2026/2/27
		※変更登録年月日	2026/4/17
商標名等	ピカッとCB	開発年月	2023/10
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 土木分野 <input type="checkbox"/> 建築分野 (必ず、どちらかを選択してください。)		
区分	<input type="checkbox"/> 工法 <input checked="" type="checkbox"/> 製品 <input type="checkbox"/> 材料 <input type="checkbox"/> 機械 <input type="checkbox"/> システム		
キーワード (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 安全・安心 <input type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> コスト削減・生産性の向上 <input type="checkbox"/> 公共工事の品質確保・向上 <input type="checkbox"/> 景観 <input type="checkbox"/> 伝統・歴史・文化 <input type="checkbox"/> リサイクル		
	自由記入		
開発目標 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 省人化 <input type="checkbox"/> 省力化 <input checked="" type="checkbox"/> 経済性の向上 <input type="checkbox"/> 施工精度の向上 <input type="checkbox"/> 耐久性の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 安全性の向上 <input type="checkbox"/> 作業環境の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 周辺環境への影響抑制 <input type="checkbox"/> 地球環境への影響抑制 <input type="checkbox"/> 省資源・省エネルギー <input type="checkbox"/> 品質の向上 <input type="checkbox"/> リサイクル性向上 <input type="checkbox"/> その他 ()		
	<input type="checkbox"/> 単独 <input checked="" type="checkbox"/> 共同研究 (<input checked="" type="checkbox"/> 民・民 <input type="checkbox"/> 民・官 <input type="checkbox"/> 民・学)		
開発体制	開発会社 株式会社ネクスコ・メンテナンス新潟、株式会社 アークノハラ		
公的支援助成等(「Made in 新潟 新商品調達制度」)の関連の有無 ※分類の詳細は(その8)参照			
該当の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無し <input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> I <input type="checkbox"/> II <input type="checkbox"/> III <input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> V <input type="checkbox"/> VI		
問合せ先	会社名	株式会社ネクスコ・メンテナンス新潟	
	担当部署	技術安全管理部 技術管理課	
	担当者	渡邊 汐梨	
	住所	新潟県長岡市喜多町字金輪138-1	
	Tel	0258-46-7266	
	Fax	0258-46-7079	
	E-mail	nmngiutsu-hanbai@e-nexco.co.jp	
	ホームページURL	https://www.e-nexco-m-ni.co.jp/	
新技術の概要※ホームページでの検索結果に表示する技術の概要です(全角127文字以内)			
「ピカッと」と光ってセンターブロックと車両の接触を防止			
新技術の概要			
①何について何をやる技術か？(新規性についてではない) ・センターブロック式区画柵に設置する視線誘導標です。 ・反射体部分がセンターブロック式区画柵より張り出しているため区画柵と車両との間隔を認識することができます。 ・蛍光色の広角プリズム型反射シートを張り付けているため、夜間や薄暮時、霧や雨といった悪天候でも、センターブロック式区画柵に対する認識を高めます。			
②従来はどのような技術で対応していたか？(従来技術についてのみ記載する。新技術との比較ではない) ・センターブロック式区画柵上へのデリニエーター(一眼Φ100)の設置。			
③公共工事のどこに適用できるか？ ・センターブロック式区画柵設置区間			

概要説明書(その2)

技術名称	センターブロック式区画柵用 上部反射材	※登録No.	2025D204
新規性及び期待される効果			
<p>①どこに新規性があるのか？(従来技術と比較して何を改善したのか？)</p> <p>既存のデリニューターと比べ反射体部分がセンターブロック式区画柵の横に張り出している。</p> <p>②期待される効果(～が～になる。～を～にすることができる。)</p> <p>本体は耐候性に優れたEPDMゴム製で、柔らかい素材であるため、万が一の接触にも車両の損傷を最小限に抑えることができる。本製品を連続して設置することで、ドライバーの視認性向上と注意喚起が図られ、センターブロック式区画柵との間隔を意識することができ、結果、走行環境の安全性が高めることができる。</p> <p>③アピールポイント</p> <p>センターブロック式区画柵は暫定2車線の高速道路等で使用されるが、車両の逸脱防止性能は本来の車両用防護柵よりも小さい。したがって、本技術の視認性向上効果と接触時の安全性の向上により、区画柵への直接的な接触や対向車線への逸脱等を未然に防止し、通行止めの発生を抑制することができる。</p>			
適用条件			
<p>①自然条件 特に無し</p> <p>②現場条件 センターブロック式区画柵で車道が分離されている箇所</p> <p>③技術提供可能地域 日本国内</p> <p>④関係法令等 特に無し</p>			
適用範囲			
<p>①適用可能な範囲 特に無し</p> <p>②特に効果の高い適用範囲 特に無し</p> <p>③適用できない範囲 特に無し</p> <p>④適用にあたり、関係する基準及びその引用元 特に無し</p>			
留意事項			
<p>①設計時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吊金具設置用インサートを利用して設置します。 ・車線にはみ出さないよう設置すること。 <p>②施工時 電動インパクトを使用し、ボルトにより既存インサートに固定します。</p> <p>③維持管理時 特に無し</p> <p>④その他 特に無し</p>			

概要説明書(その3)

技術名称	センターブロック式区画柵用 上部反射材	※登録No.	2025D204
------	---------------------	--------	----------

活用の効果

比較する従来技術 センターブロック式区画柵へ設置するデリニエーター

項目	活用の効果			比較の根拠
経済性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上 (17 %)	<input type="checkbox"/> 同程度	<input type="checkbox"/> 低下 (%)	材料単価
工 程	<input type="checkbox"/> 短縮 (%)	<input checked="" type="checkbox"/> 同程度	<input type="checkbox"/> 増加 (%)	
品 質	<input type="checkbox"/> 向上	<input checked="" type="checkbox"/> 同程度	<input type="checkbox"/> 低下	
安全性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上	<input type="checkbox"/> 同程度	<input type="checkbox"/> 低下	コンクリートブロックとの離隔距離
施工性	<input type="checkbox"/> 向上	<input checked="" type="checkbox"/> 同程度	<input type="checkbox"/> 低下	
周辺環境への影響	<input type="checkbox"/> 向上	<input checked="" type="checkbox"/> 同程度	<input type="checkbox"/> 低下	

活用の効果の根拠

基準数量	1	単位	基
	新技術(A)	従来技術(B)	変化値A/B(%)
経済性	15,000円	18,000円	83
工 程	日	日	

●新技術の内訳

基準数量: 1基 あたり

項 目	仕 様	数量	単位	単価 (円)	金額 (円)	摘 要
ピカッとCB	EPDM+反射シート	1	基	15,000	15,000	自社単価




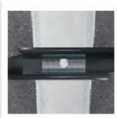

●従来技術の内訳

基準数量: 1基 あたり

項目	仕様	数量	単位	単価 (円)	金額 (円)	摘 要
区画柵上へ設置するデリニエーター	一眼φ100	1	基	18,000	18,000	自社単価

○ライフサイクルコストに関する事項(必要な場合記載)

概要説明書(その4)

技術名称	センターブロック式区画柵用 上部反射材		※登録No.	2025D204
施工単価	<input checked="" type="checkbox"/> 歩掛りなし <input type="checkbox"/> 歩掛りあり(<input type="checkbox"/> 標準 ・ <input type="checkbox"/> 協会 ・ <input type="checkbox"/> 自社)			
製品名	数量	単位	単価	金額(税別)
ピカッとCB	1	組	15,000	15,000
製品内訳				
1組当たり				
名称	数量	単位	寸法	仕様・規格
反射材	2	枚	図面による	素材:EPDMゴム 反射体:広角プリズム反射シート
ボルト	1	本	M16 L=35	溶融亜鉛メッキ
ボルト用平ワッシャー	1	枚	M16用	溶融亜鉛メッキ
ボルト用スプリングワッシャー	1	枚	M16用	溶融亜鉛メッキ
平座金	1	枚	80*38 t3.2	溶融亜鉛メッキ
施工方法				
<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>01  ブロックの樹脂キャップを外します。</p> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>04  付属のメッキ金具を置きます。</p> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>02  穴位置をあわせ手前側の本体を置きます。</p> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>05  インパクト等で付属のボルトを締めます。</p> </div> <div style="width: 50%; border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>03  反対側の本体を重ねて置きます。</p> </div> </div>				
残された課題と今後の開発計画				
①課題 橋梁のコンクリート製高欄等、センターブロック式区画柵以外での適用を検討				
②計画 特に無し				
施工実績	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし			
新潟県の公共事業				
他の公共機関	0件			
民間等	1件			
特許・実用新案				番号
特許	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> 出願中 <input type="checkbox"/> 出願予定 <input checked="" type="checkbox"/> なし			
実用新案	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> 出願中 <input checked="" type="checkbox"/> 出願予定 <input type="checkbox"/> なし			
他の機関による 評価・証明	証明機関			
	制度名			
	番号			
	評価等年月日			
	証明等範囲			

概要説明書(その5)

技術名称	センターブロック式区画柵用 上部反射材	※登録No.	2025D204
------	---------------------	--------	----------

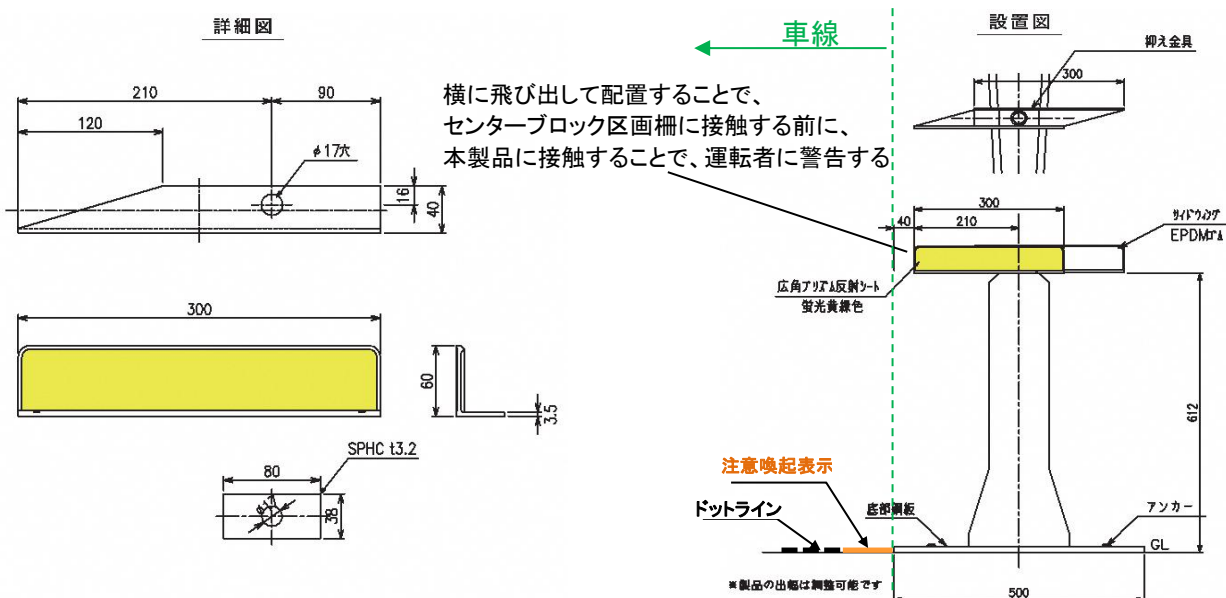
概要図、写真等

◇設置状況(全景)

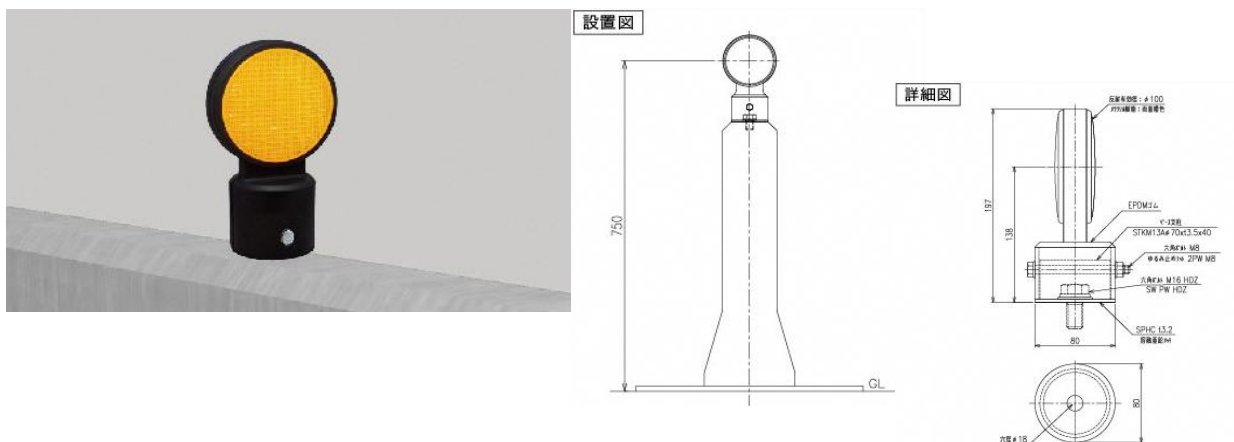


※センターブロック式区画柵に接触しないよう、注意喚起表示とドットラインが引かれるが、除雪作業等により薄れてしまう

◇図面



◇【参考】従来技術



新技術がボルト1本の締め付けに対し、従来技術はボルト2本の締め付けが必要。

